

## 第 9 0 3 回教育委員会の会議結果について

○日 時 平成 1 9 年 8 月 2 7 日 (月) 午後 2 時～

○場 所 山形県庁舎 教育委員室

○出席委員 石坂委員長、菊川委員、小嶋委員、黒澤委員、松村委員、山口教育長

○報 告

(1) 平成 19 年度全国高等学校総合体育大会等の結果について (スポーツ保健課)  
 全国高等学校総合体育大会及び全国中学校体育大会等の県選手団の入賞状況等について報告を行いました。

【入賞数】 全国高等学校総合体育大会夏季大会 団体 7 個人 2 9 計 3 6  
 全国中学校体育大会等 団体 5 個人 9 計 1 4

○議 事

いずれも原案のとおり可決されました。

	議 案	担 当 課
議第 1 号	博物館法第 1 2 条の規定に基づく博物館の登録について	教育やまがた 振興課
	申請のあった次の施設について博物館原簿に登録することとしました。 登録年月日：平成 19 年 8 月 27 日 記号番号：山形第 14 号 設置者の名称：鶴岡市 設置者の所在地：鶴岡市馬場町 9 番 25 号 名称：鶴岡アートフォーラム 所在地：鶴岡市馬場町 13 番 3 号	
議第 2 号	山形県立高等学校並びに山形県立特別支援学校の高等部における平成 20 年度使用教科用図書の採択について	義務教育課・ 高校教育課
	各県立高等学校及び県立特別支援学校の高等部における選定のとおり平成 20 年度使用教科用図書を採択しました。 【選定数】 高校 7 2 1 点 特別支援学校 9 5 点	

<その他>

委員会終了後、平成 18 年度における児童生徒等の暴力行為、いじめ、不登校等の問題行動の状況について、義務教育課及び高校教育課から、前年度より増加傾向にあることを報告し、委員から次のような御意見をいただきました。

- ・暴力行為やいじめに対する市町村教育委員会の具体的な対応への積極的な支援が必要ではないか。
- ・不登校の発生と少人数教育との関係を分析する必要があるのではないか。
- ・不登校のきっかけとして、分類上「本人の問題」の割合が高いが、その内容について分析する必要があるのではないか。
- ・不登校児童等の卒業後の引きこもりについて実態調査が必要ではないか。

- ・不登校に対する教育庁としてのプリンシプルを考えるべきだ。
- ・集団ではなく個人との接触が重要ではないか。
- ・先生は生徒に一言、声を掛けてほしい。先生から見られていると生徒が思うことが大事だ。その観点での教員研修を行ってはどうか。
- ・教師がどれだけ生徒との接触を重要と考えているかが重要。教師個人の意識の問題。
- ・学校だけの問題ではないが、家庭の問題だといって切り捨てることもできない。学校も関わっていくしかない。
- ・スクールカウンセラーの積極的な活用を図っていく必要がある。
- ・教師が共通の認識を持たないと、たとえ人を増やしてもうまくいかない。
- ・不登校への対応が進んでいる霞城学園高校で他校の教員の研修を行ってはどうか。
- ・霞城学園高校での取組み等を義務教育にいかにかを落とすかを考える必要がある。
- ・地道な取組みだが着実にやっていく必要がある。
- ・いじめなどの今日的な課題の解決のためには、コミュニケーションの視点による取組みを教育の全ての分野で推し進めることが有効ではないか。
- ・そのための具体的な方法について、いくつかの案を提示してもらえばプライオリティを議論できる。それがあれば、説得力がでる。